



たちばな遺跡マップ 2015

古代川崎発見

今から 1,300 年以上も昔、中国では隋・唐という強大な中央集権国家が成立し、東アジア全域に勢力を伸ばしていました。激動の時代を迎えた東アジアの中で、当時倭国と呼ばれた日本もそれに対応するため、中国の制度を導入して、新しく強い国家体制への変革を進めました。そうした新しい国家体制づくりは、7世紀後半に奈良の都から遠く離れた現在の川崎の地にも及び、武蔵国 21 郡の1つである橘樹郡^{たちばなぐん}、そして橘樹郡を治める役所として現在の高津区千年・宮前区野川^{ぐんが ぐうけ}に橘樹郡衙（郡家）が設置されました。以後 200 年近く、この地は古代川崎の中心地として栄えました。

橘樹郡衙が置かれたこの地には、今も連綿と法灯を伝える古刹・影向寺をはじめ、多くの遺跡や文化財が残るとともに、昔の面影を宿す丘陵と谷戸が織り成すノスタルジックな景観、歴史を物語る古民家や趣ある坂や道などが古代川崎の歴史を今に伝えています。

歴史ロマン溢れる橘樹の地をゆっくり歩きながら、時の流れを越えて先人達の息吹に触れ、古代川崎の魅力を楽しんでみませんか。



KAWASAKI CITY

川崎市

影向寺木造薬師如来像両脇侍像
(国指定重要文化財)

発行：川崎市教育委員会 TEL：044-200-2111 刊行：2016（平成28）年2月

たちばな かんがいせきぐん
国指定史跡 橘樹官衙遺跡群

橘樹官衙遺跡群は、多摩川に沿って細長い市域を形成している川崎市のほぼ中央部に当たる高津区千年・宮前区野川に所在し、東に多摩川とその沖積低地を見下ろし、西に霊峰富士を仰ぐ下末吉台地上の高燥の地に立地しています。遺跡群は、通称「伊勢山台」・「影向寺台」と呼ばれる標高40～42mの丘陵平坦面に所在しており、北東側の沖積低地との比高差は約30mを測ります。

本遺跡群は、古代武蔵国に所在した21郡の1つ、橘樹郡の役所跡である橘樹郡衙（郡家）跡とともに、その西側に隣接して造営された7世紀後葉の創建とされる古代影向寺が所在する影向寺遺跡とその周辺に展開する関連遺跡で構成されており、構成する遺跡の中で、「古代地方行政機関と寺院との密接な関係性を示すとともに、地方官衙の成立から廃絶に至る経過をたどることができる希有な遺跡群であり、その成立の背景や構造の変化の過程も判明するなど、7世紀から10世紀にかけての官衙の実態とその推移を知る上で高い歴史的価値を有している」と、橘樹郡衙跡と影向寺遺跡が橘樹官衙遺跡群として2015（平成27）年3月10日に文部科学大臣により国史跡に指定されました。



橘樹官衙遺跡群遺構配置図



掘立柱建物跡発掘作業風景



影向寺遺跡 塔跡版築

たちばなぐんがあと ちとせいせやまだい
橘樹郡衙跡 (千年伊勢山台遺跡)



橘樹郡衙跡



掘立柱建物跡発掘状況

【住所】高津区千年字伊勢山台 432-1 ほか
 【バス停】「影向寺」より徒歩 5 分

橘樹郡衙跡（千年伊勢山台遺跡）は、南関東地方屈指の古刹影向寺の東側にあたる通称「伊勢山台」と呼ばれる丘陵平坦面上、東西約 400m、南北約 180m の範囲に広がっており、東側を「蟻山地区」、中央を「伊勢山台地区」、西側を「上原宿地区」と呼んでいます。

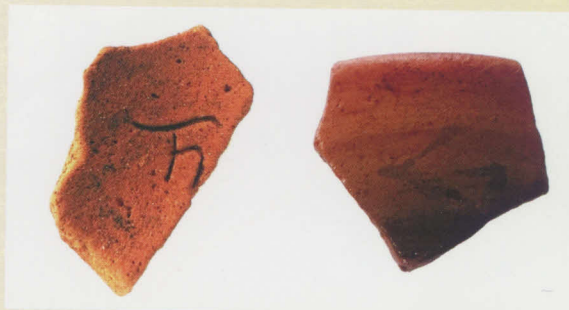
橘樹郡衙の名前が広く知られる契機となったのは、1996（平成 8）年に実施された千年伊勢山台北遺跡の発掘調査で、東西方向に整然と並んだ総柱建物跡が発見されたことによります。このような建物跡は、全国的に古代の役所跡等ではしばしば発見されることから、この建物跡が古代橘樹郡の役所跡の倉庫（正倉）ではないかと注目されました。

この発見を受けて、川崎市教育委員会では、1998（平成 10）年度から 2004（平成 16）年度まで橘樹郡衙推定地確認調査事業を実施しました。その結果、周囲を溝で区画した中に正倉を多数設置している正倉院を確認するとともに、多くの掘立柱建物跡を検出しましたが、「正倉」以外の郡衙の中心施設である「郡庁」・「館」・「厨」と比定することはできませんでした。

その後、川崎市教育委員会ではガス管埋設工事・緑地整備工事・宅地造成工事及び農地土壌改良工事等に伴う確認調査を実施し、橘樹郡衙に関連する新たな建物跡を確認するとともに、正倉群やそれを取り囲む区画溝等の内容を把握し、郡衙正倉院の構成及び変遷を概ね明らかにすることができました。また、2013（平成 25）年度からは、橘樹官衙遺跡群全体の内容把握を目的に、橘樹官衙遺跡群確認調査事業を開始し、橘樹郡衙正倉院周辺の確認や上原宿地区における郡衙関連施設の把握等の調査を行っています。

過去 17 次にわたる調査によって、正倉院設置前の 7 世紀後葉に大壁（壁建ち）建物が設置された段階（Ⅰ期）、7 世紀後葉～8 世紀初頭の評段階に倉庫群が設置された時期（Ⅱ期）、8 世紀前葉～後葉の正倉院整備・拡充（Ⅲ期）、9 世紀前葉～中葉の縮小・終焉期（Ⅳ期）を経て、9 世紀後葉には存在しなくなることがわかりました。

現在の風景から想像することは難しいですが、これまでの調査成果等から、今から 1300 年程前、この橘樹の地に古代律令国家が作り上げた地方支配の拠点が築かれ、都の香り漂う文化が花開いていたことが明らかになりつつあります。



出土土器（左：刻書土器・右：墨書土器）

影向寺・影向寺遺跡

【住所】宮前区野川 419

【バス停】「影向寺」より徒歩 10 分

影向寺は南関東屈指の古刹として知られ、江戸時代しんぺんむさしふどきこう えどめいしよすえの地誌『新編武蔵風土記稿』、『江戸名所図会』、『江戸名所記』などにも登場し、古くから近郷近在の人々の信仰を集めてきました。この影向寺境内及びその周辺における過去 23 次にわたる発掘調査により、古代影向寺の遺構等が確認されたことから、古代影向寺とその関連遺構群を、現在の影向寺と区別し「影向寺遺跡」と呼称しています。

影向寺遺跡の発掘調査で発見された「むざしこくえ ばらごおり无射志国荏原評」銘文字瓦（川崎市重要歴史記念物）により、古代の影向寺が 701（大宝元）年の大宝律令施行前である 7 世紀後葉に創建されたことが明らかになりました。また影向寺が所在する橘樹評（郡）ではなく、隣接する荏原評から供給されたと考えられる瓦を使用していることから、影向寺創建に周辺こおりの評（郡）の協力の下で造営された可能性が考えられます。

創建後は、8 世紀中葉の塔造営・金堂改築による伽藍整備を経て、10 世紀初頭まで国府や国分寺で使用される瓦の供給を受けて寺院補修を行っていたことが明らかになっていますが、それ以降については、発掘調査や文献資料などの資料が乏しく、詳細は不明です。ただし、発掘調査では 10 世紀前葉以降の瓦が発見されていないこと、現薬師堂基壇下に中世の基壇が確認されていることなどから、古代の瓦葺建物である塔・金堂は 10 世紀前葉以降失われてしまい、古代影向寺は衰退していったものと考えられます。

現在の影向寺本尊である木造薬師如来両脇侍像（11 世紀後半：国重要文化財）が製作されるまでの約 200 年間についての詳細は不明ですが、平安時代以降、木造聖徳太子立像（川崎市重要歴史記念物）や木造十二神将立像（川崎市重要歴史記念物）といった中世の貴重な文化財も伝わっており、影向寺が衰退と復興を繰り返しながらも、今日まで連綿と法灯を伝えてきたことが明らかになっています。

また、古代影向寺に存在した三重塔の塔心礎と推測される「影向石」が境内南東隅にあり、その中心部分の窪みに溜まった水で目を洗うと眼病が治ると言われていたことや、境内にそびえる樹齢 800 年とも言われる大イチョウの乳柱を削って飲むと乳の出が良くなるという伝承も残っているなど、見所がたくさんあります。



影向寺薬師堂（県指定重要文化財）



影向寺遺跡出土瓦

「无射志国荏原評」銘文字瓦



影向石

橘樹神社・子母口富士見台古墳

【住所】（橘樹神社）高津区子母口 122（子母口富士見台古墳）高津区子母口 54-173

【バス停】「子母口」より徒歩 5 分

〔県指定史跡〕

馬絹古墳

【住所】宮前区馬絹 994-10 ほか 【バス停】「金山」より徒歩5分



馬絹古墳墳丘

馬絹古墳は直径約 33m、高さ約 6m の円墳で墳丘の周囲には幅 3.5m、深さ 1.5m ほどの周溝が巡らされています。古墳の内部主体は全長 9.6m にも及ぶ3室構造の大型の横穴式石室で、壁面には白色粘土が帯状に塗られ、円文などの模様も描かれています。馬絹古墳は7世紀後半ごろに築かれ、強い政治力と経済力を有していた有力氏族が埋葬されていたと考えられます。

現在は史跡公園として整備されており、保存のために墳丘内に入ることはできませんが、馬絹古墳についての詳しい解説などをみることができます。

〔県指定史跡〕

西福寺古墳

【住所】高津区梶ヶ谷 3-17 【バス停】「大原」より徒歩5分

西福寺古墳は直径約 35m、高さ約 5.5m の円墳で、墳丘の周囲には幅 6～7.5m、深さ 0.7～0.8m の周溝が巡らされています。墳丘周辺の調査で、周溝の中から多くの埴輪片が発見されました。多くの円筒埴輪の破片に混じって、水鳥の頭部と思われる形象埴輪も発見されています。西福寺古墳が築かれたのは馬絹古墳よりも古い5世紀後半～6世紀前半で、築造当初は墳丘の周囲を埴輪が取り囲んでいたと考えられます。

現在、梶ヶ谷第3公園の中に保存されており、保存のために墳丘内への立ち入りはできませんが、解説板や古墳周溝のブロック表示から、西福寺古墳の雰囲気を感じることができます。



西福寺古墳墳丘



出土水鳥形埴輪

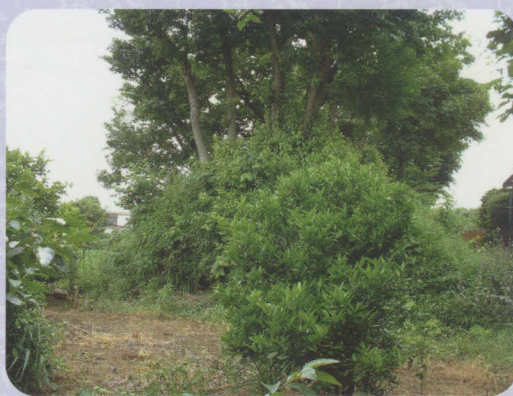
野川1号墳

【住所】宮前区野川

野川1号墳は、宮前区野川字北耕地の丘陵平坦面の南端付近にあり、かつては畑地の真ん中にぽつんと墳丘がありましたが、現在では北側墳丘のすぐそばまで宅地化されています。古墳北側の個人住宅建設に伴い、2009（平成21）年に発掘調査を実施し、古墳西側を巡る周溝の一部を検出しました。

かつては、北側に野川2号墳が存在していましたが、現在では造成され見ることはできませんので、この野川1号墳はこの地域に残る貴重な古墳といえます。

※古墳は個人所有地（畑地）の中にありますので立ち入ることはできません。



野川1号墳墳丘

新作小高台遺跡

【住所】高津区新作1-9-1

【バス停】「養福寺前」より徒歩5分

新作小高台遺跡は、市立新作小学校建設に伴い、1979・1980（昭和54・55）年に学校建設範囲の約15,000㎡について発掘調査が実施されました。発掘調査の結果、縄文時代から中近世にかけての住居跡が80軒以上発見されるとともに、弥生時代～古墳時代の方形周溝墓なども見つかりました。さらに、調査区南側の急斜面や谷からは、市内では珍しい中世の井戸・掘立柱遺構・地下式横穴・住居跡・土坑・ピットや赤土を貼って床状にした遺構等が見つかりました。

発見された遺構の配置を見ると、斜面上部を3m近く削った平坦面に井戸・住居跡・土坑・ピットを配置し、居住地域あるいは馬の飼育場として利用していたこと、貼り床を有する遺構から小刀・古銭・馬の歯等が見つかることや地下式横穴の存在から、谷が雨乞いなどの祭祀や墓と葬送の場として利用されていたと想定され、中世の村の一形態を示す川崎市内では数少ない事例として注目されます。



出土遺物（弥生時代～古墳時代）



出土陶磁器（中世）

梶ヶ谷神明社上遺跡

【住所】高津区梶ヶ谷4丁目

梶ヶ谷神明社上遺跡は矢上川左岸の標高40～45mの多摩丘陵上に位置しており、昭和42年3月に第1次調査、平成5年6～7月に第2次調査が実施され、弥生時代中期の竪穴建物3軒と遺存状態のよい土器、石器、鉄器、玉類が発見されました。

出土した土器の大部分は弥生時代中期後半にこの地域でつくられた宮ノ台式土器で、第1次・第2次調査を通じ計22個体がほぼ完全な形で出土しました。また、中部高地で作られた栗林式土器

も少量発見されており、この時代の地域間交流を示す貴重な資料でもあります。

さらに、鉄斧・鉄鏝などの鉄製品とともに、^{てつのおの}太形蛤刃石斧・^{てつのみ}環状石斧・^{ふとがたはまぐりばせきふ}磨石・^{かんじょうせきふ}石皿・^{すりいし}管玉など、素材や用途が異なる豊富な資料が竪穴住居から出土しています。このことから梶ヶ谷神明社上遺跡は、弥生時代中期後半の質・量共に充実した内容を持つ遺物が出土し、弥生時代社会の研究や生活の解明に非常に大きな役割を果たす重要な遺跡といえます。出土遺物は川崎市重要歴史記念物として指定され、現在川崎市民民ミュージアムで一部を見学することができます。

※遺跡は民有地の内にありますので立ち入ることはできません。



出土土器（弥生時代）

能満寺

【住所】高津区千年 354 【バス停】「能満寺」より徒歩 5 分

能満寺は、行基菩薩によって創建され、1714（正徳 4）年に没した観空によって中興されたと伝えられています。現在の本堂は、影向寺薬師堂建立の際に棟梁を務めた木嶋長右衛門などによって 1739（元文 4）年に建立され、本尊の木造虚空蔵菩薩立像（神奈川県指定重要文化財）と木造聖観世音菩薩立像（川崎市重要歴史記念物）などが祀られています。木造虚空蔵菩薩立像は後頭部内面の墨書銘から鎌倉の仏師朝祐（ちようゆう）によって 1390（明徳元）年に作られたこと、木造聖観世音菩薩立像は平安時代前期の作で背面の朱漆銘文からもとは岩川村（現・高津区千年、千年新町）長命寺観音堂の本尊であったことが判明しています。



能満寺本堂



木造虚空蔵菩薩立像



木造聖観世音菩薩立像

〔県指定史跡〕

子母口貝塚

【住所】高津区子母口 54-148

【バス停】「子母口」より徒歩 8 分

子母口貝塚は、今から約 8,100 年前の縄文時代早期後葉の貝塚で、「子母口式土器」の標式遺跡としても有名です。子母口貝塚は東西約 100m、南北約 150mの範囲にある 4 つの地点貝塚を総称したもので、浅海の砂の中にあるマガキが約半分を占め、ヤマトシジミやハイガイに混じって、スズキやクロダイなどの魚骨やイノシシなどの獣骨も見つかっていたようです。当時、子母口貝塚の眼下には砂浜が広がり、その先には大海原が続いていたようです。現在、公園の中に貝層標本や解説板が設置されており、海の幸の恩恵を受けて暮らしていた縄文人たちの生活を想像することができます。



子母口貝塚公園

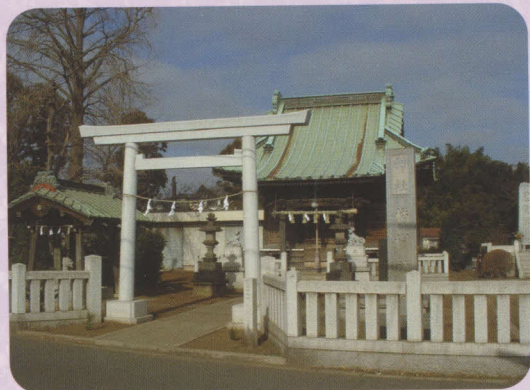


子母口貝塚貝層

たちばなじんじゃ しほくち ふじみだい
橘樹神社・子母口富士見台古墳

【住所】(橘樹神社) 高津区子母口 122 (子母口富士見台古墳) 高津区子母口 54-173

【バス停】「子母口」より徒歩5分



橘樹神社



富士見台古墳

橘樹神社と子母口富士見台古墳には、^{やまとたけるのみこと}「日本武尊が東征の際、相武国(後の相模国)から上総国^{おとちばなひめ}まで船で渡ろうとした時、海が荒れ狂い、日本武尊一行の行く手を遮ったため、妃である弟橘媛が自ら身を投げて海を鎮めた。やがて媛の衣や冠等がこの地に漂着したことから、この地に御陵を築き納めた。」という伝承が残っており、その御陵とされてきたのが、子母口富士見台古墳は、現在、直径約 17.5m、高さ約 3.7m ですが、当初はもっと大きかったと推測されます。

また、橘樹神社は、永徳4(1384)年の文献に「立花宮」として載るなど、中世にまで確実に遡ることができる古い神社です。「橘樹」の名を冠しているとともに、古代の役所である郡衙(郡家)の周辺には寺院や神社が置かれることが多いことから、影向寺とともに、橘樹郡衙設置前後に建てられた可能性もあり、古代川崎の歴史を示す貴重な文化財といえます。

しほくちうえのだい れんじょういんきた
子母口植之台遺跡・蓮乗院北遺跡

【住所】高津区子母口植之台

子母口植之台遺跡・蓮乗院北遺跡は、国指定史跡の橘樹官衙遺跡群(橘樹郡衙跡)から南東側約 550m、神奈川県指定史跡の子母口貝塚から北西側約 150m、西側約 100mに位置しており、これまでに 12 回の発掘調査が実施されています。1987(昭和 62)年に実施された蓮乗院北遺跡の調査では、橘樹郡衙正倉院で発見された総柱の掘立柱建物跡とほぼ同規模の建物跡が確認され、当時この辺りに橘樹郡衙の正倉院別院といった公的な施設が設置されていた可能性が考えられています。



蓮乗院北遺跡検出掘立柱建物跡

また、2011(平成 23)年に、蓮乗院北遺跡の西側で実施された子母口植之台遺跡第 7 地点の調査では、古代の竪穴建物とともに掘立柱建物跡も発見され、この辺りに集落が展開していたことも確認されています。現在は、住宅地になっていますが、古代川崎の歴史を考える上で、橘樹郡衙跡や影向寺遺跡と同様に、非常に重要な遺跡です。